



# コスモス



水無月  
No. 3

【知】 進んで学びよく考える子 【徳】 明るく思いやりのある子 【体】 たくましくねばり強い子

## 文房具屋のおばちゃん

校長 清水 励

**青**空が恋しい時期となりました。「雨生百穀(うりゅうひゃっこく)」という言葉もあるように、雨は私たちの生活の恵みであり命の源となるものです。曇天が多く、憂鬱な気分になりがちですが、こんな季節ならではの楽しみを見つけて生活していきたいと思います。

**さ**て、「学校・家庭・地域の連携」は、学校でよく使われる言葉です。子供たちの健やかな成長のためには、この三者が互いの役割を果たしつつ、協力し合うことが欠かせません。

しかし、その中で「地域」というものは、今一つ何をさしているのか、はっきりしないところがあるように感じています。もちろん、日頃から登下校の安全確保のための見守りを行っていただいている方々は、間違いなくお世話になっている「地域」の方々です。また、学校運営協議員や民生児童委員の方々、学校近辺の公共施設やお店など校外学習等でお世話になっている方々も、学校にとってとても貴重な「地域」といえると思います。

しかし、「地域」とは、それだけなのでしょう吗？子供たちから見ての「地域」とは、もっと幅広く、学校や自分の保護者以外の「常に見守って育ててくれる全てのもの」が含まれるのではないのでしょうか。残念ながら、昭和からの時代の変化の中で、その「地域の教育力」は、落ちてしまっている気がしてなりません。

**私**が小学生の時に、学校の前に新しい文房具屋さんができました。駄菓子や 10 円ゲームなども置いてあったので、お店周辺に子供たちがいない日がないくらい、にぎわった場所となりました。当時、自分は消しゴムを集めていて、特に三菱鉛筆の「BOX Y シリーズ」が大好きで、新しいデザインの消しゴムが出ると、すぐにお小遣いで買っていました。ある日、新しいデザインの消しゴムが発売されたので、その文房具屋さんで買おうとしたときのこと。『お店のおばちゃん』は、自分が「くださいな。」と渡した消しゴムをしばらくじっと見てから、目線をあげて、とても優しい口調でこう言いました。「僕はさ、先週も消しゴム買ったよね。そして、そのちょっと前にも消しゴム買ったよね。その消しゴムは、まだあるんじゃない？ だったら、その消しゴムを大切に使って、使い終わったら新しいのを買いにおいでね。」と。そして、手にした消しゴムをレジの横にそっと置きました。私は、「僕は消しゴム集めが趣味なんです。」ということが言えずに、お店を出て行きました。そして、家に帰ってから、このことを母親に言うと、母親から「その通りよ。あんた、消しゴムが、そんな何個も何個もあっても仕方ないじゃない！」と言われました。

今、そのような『文房具屋のおばちゃん』『母親』は、どれだけいるのでしょうか。本当にその子のことを思って、ましてや消しゴム一つでもお店の儲けが減ることよりも、その子のことを優先できる『文房具屋のおばちゃん』…。消しゴムを売ってくれなかったおばちゃん側に立てる『母親』…。

**時**折り、学校に「近所の子が〇〇して困っている。私は言えないので、学校から注意してほしい。」という連絡があります(多くは匿名)。地域の大人同士のつながり、学校の保護者同士のつながりが、さらに信頼、尊重しあえる関係になれば「当たり前のように大人たちが子供たちを育てられる地域」という、子供たちにとってさらに素晴らしい「地域」となる気がしています。学校が、そのつながりの核になることも、今は役割の一つなのかもしれません。